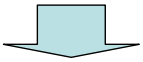


これまでの社会活動
河川整備・利用
淀川水系に与えてきた影響
真摯に受け止める

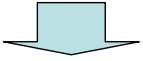
河川整備・管理の
取り組み転換

自然環境の保全と再生、治水・利水・利用
総合的判断に基づく河川整備

戦後最大洪水
流下させる



桂川河道
掘削



計画規模洪水
淀川水位
HWLUP



環境への影響検討

ダム建設

住民の生命を
守る

琵琶湖・淀川の
保全・再生

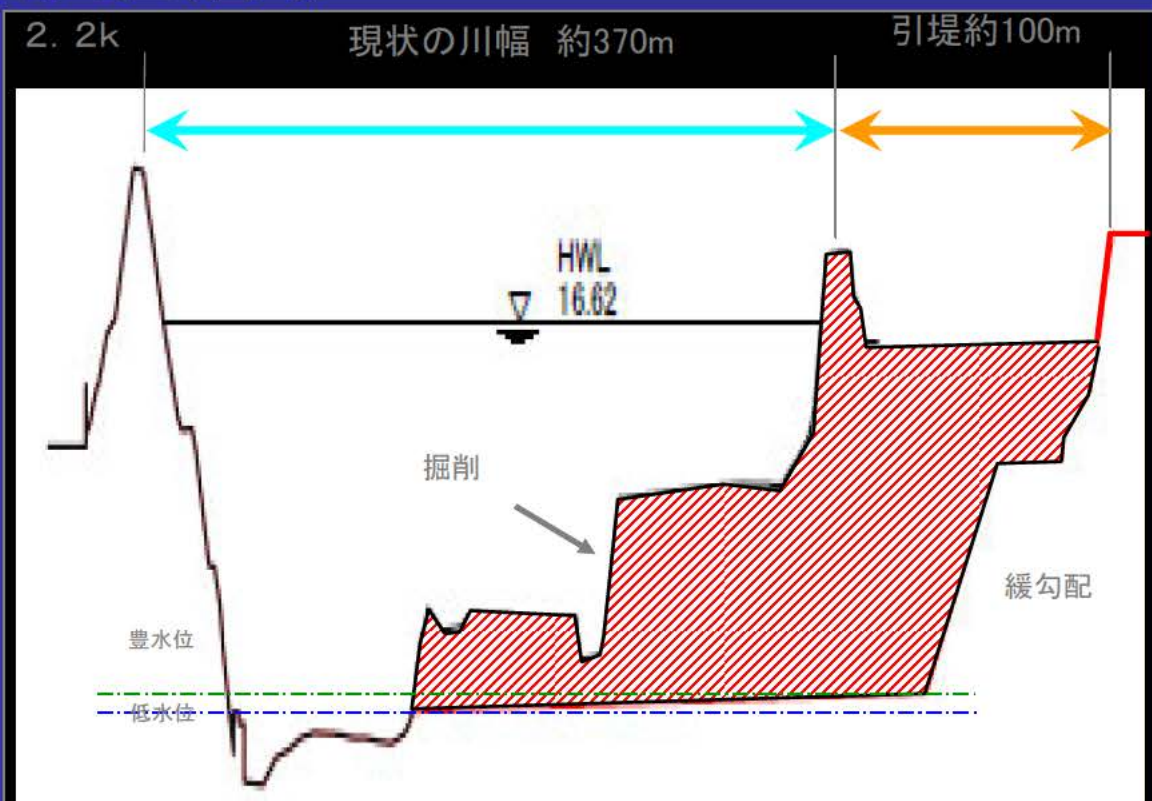
戦後最大洪水
流下させる

桂川河道
掘削

ダム建設

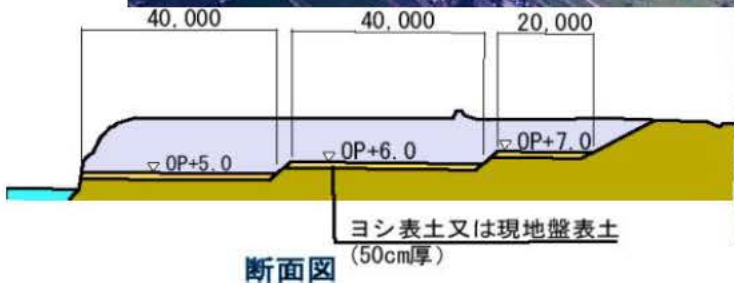
旧堤防撤去
河川環境変化を踏まえた段階的掘削
枚方～3川合流部掘削
(水位低下、川の連続性修復)
HWL以上、耐越水堤防強化
流域対策

大下津地区(桂川)

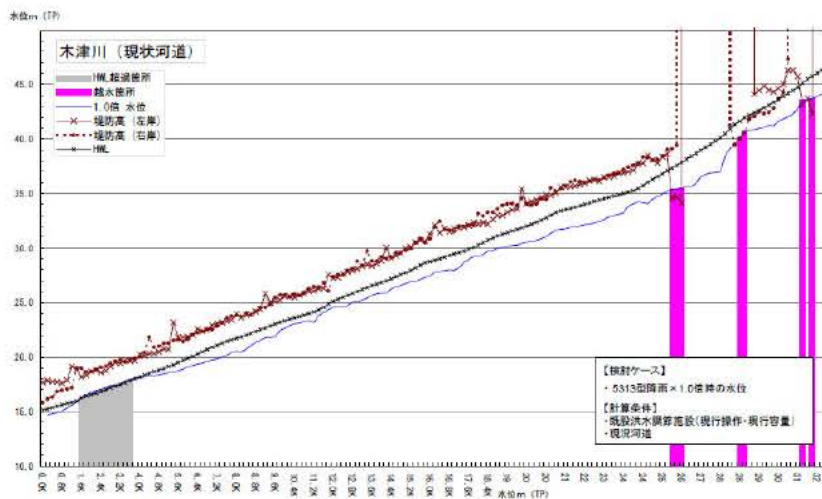


横断方向の連続性の改善

鵜殿地区

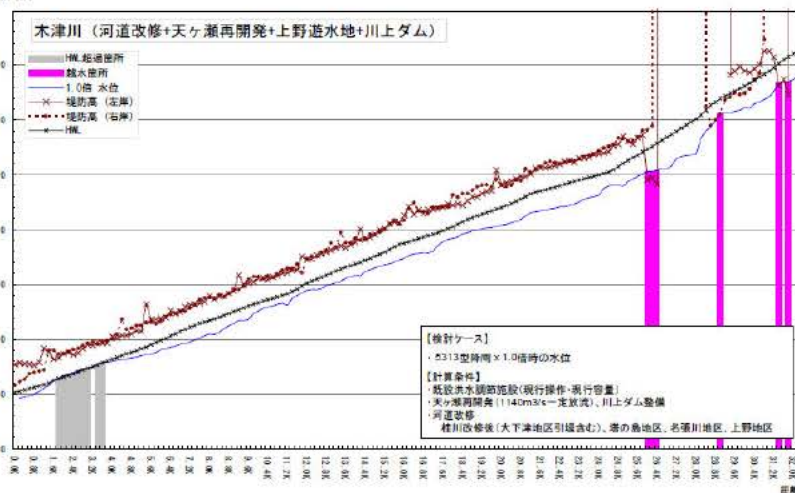


断面図

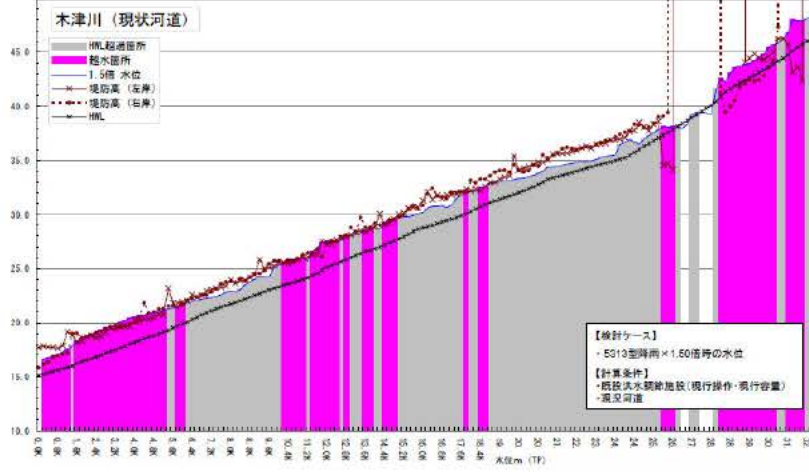


**木津川
実績洪水
現状**

**木津川
実績洪水
整備後**

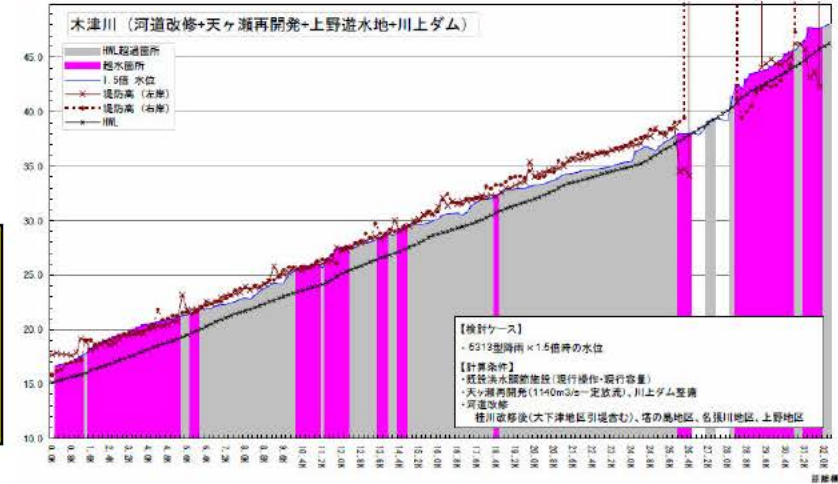


水位m (TP)

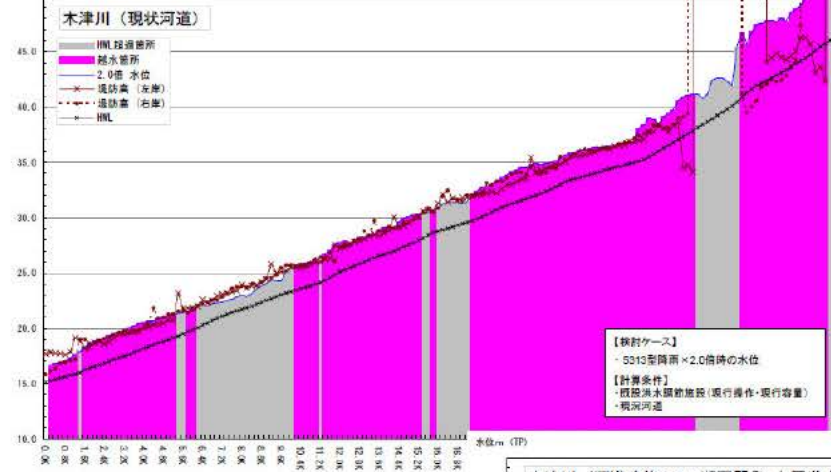


**木津川
実績×1.5
現状**

**木津川
実績×1.5
整備後**



水位m (TP)

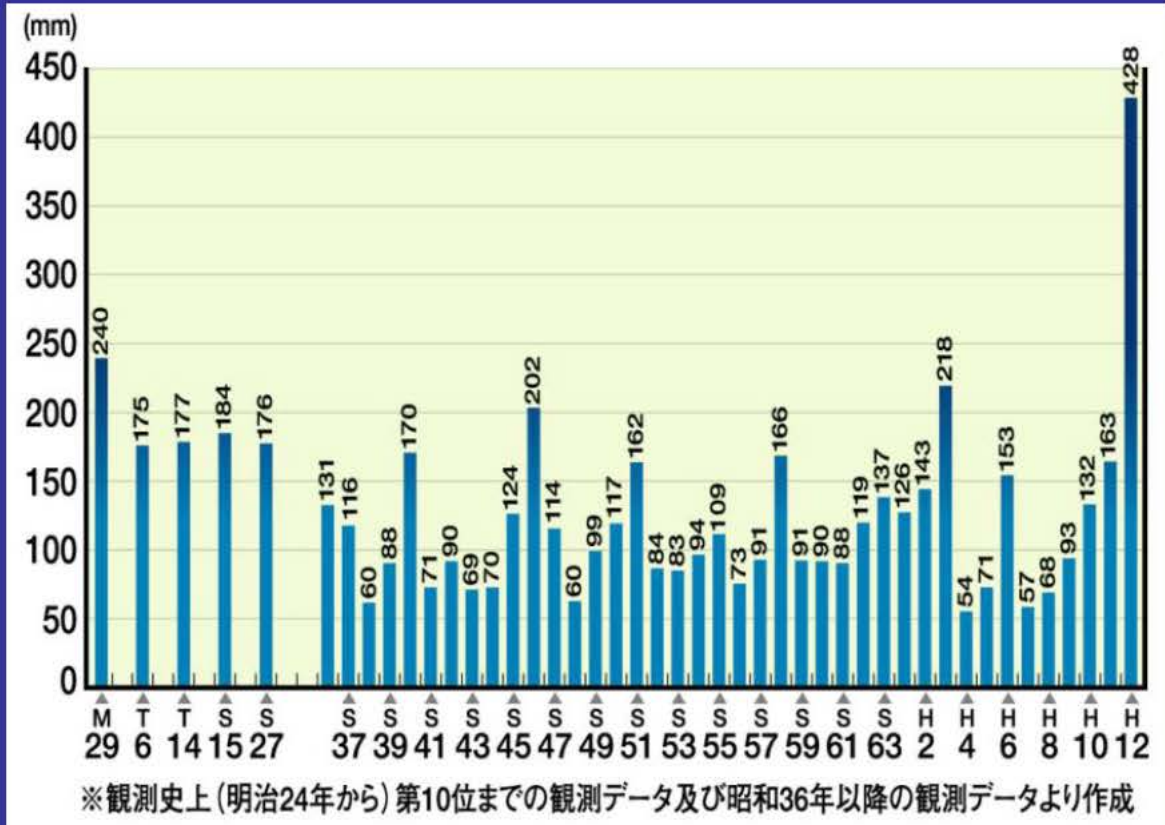


**木津川
実績×2.0
現状**

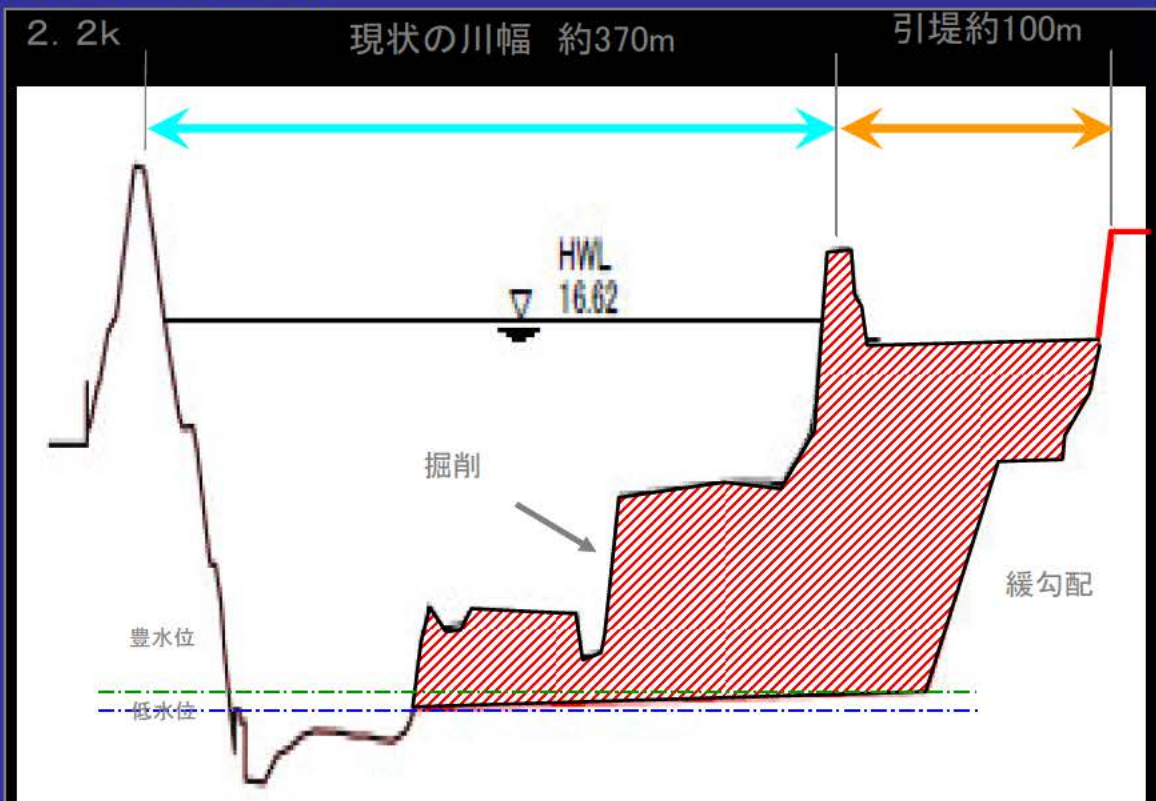
**木津川
実績×2.0
整備後**



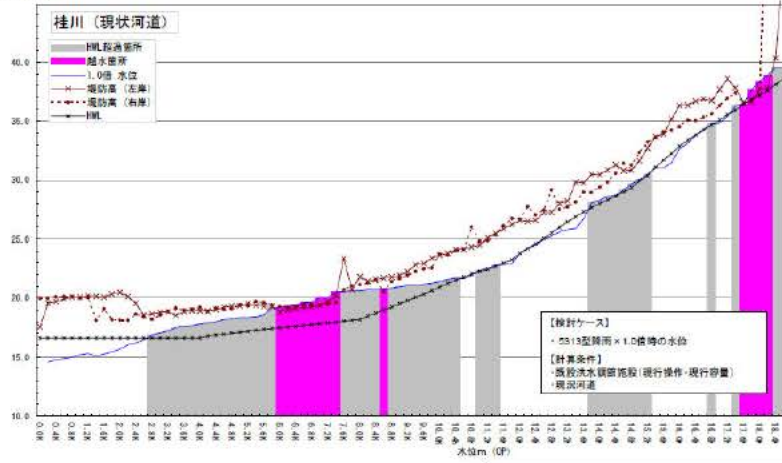
名古屋地方気象台(日降水量)



大下津地区(桂川)

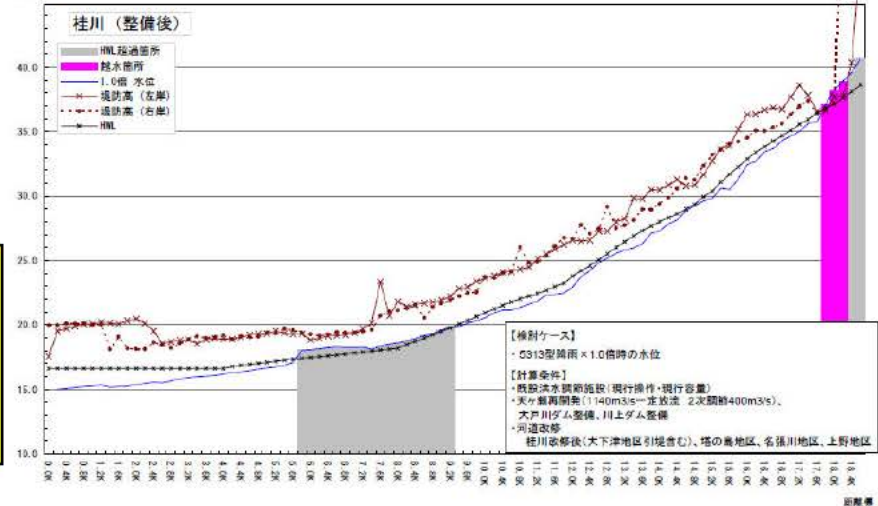


水位m (QP)



桂川 実績洪水 現状

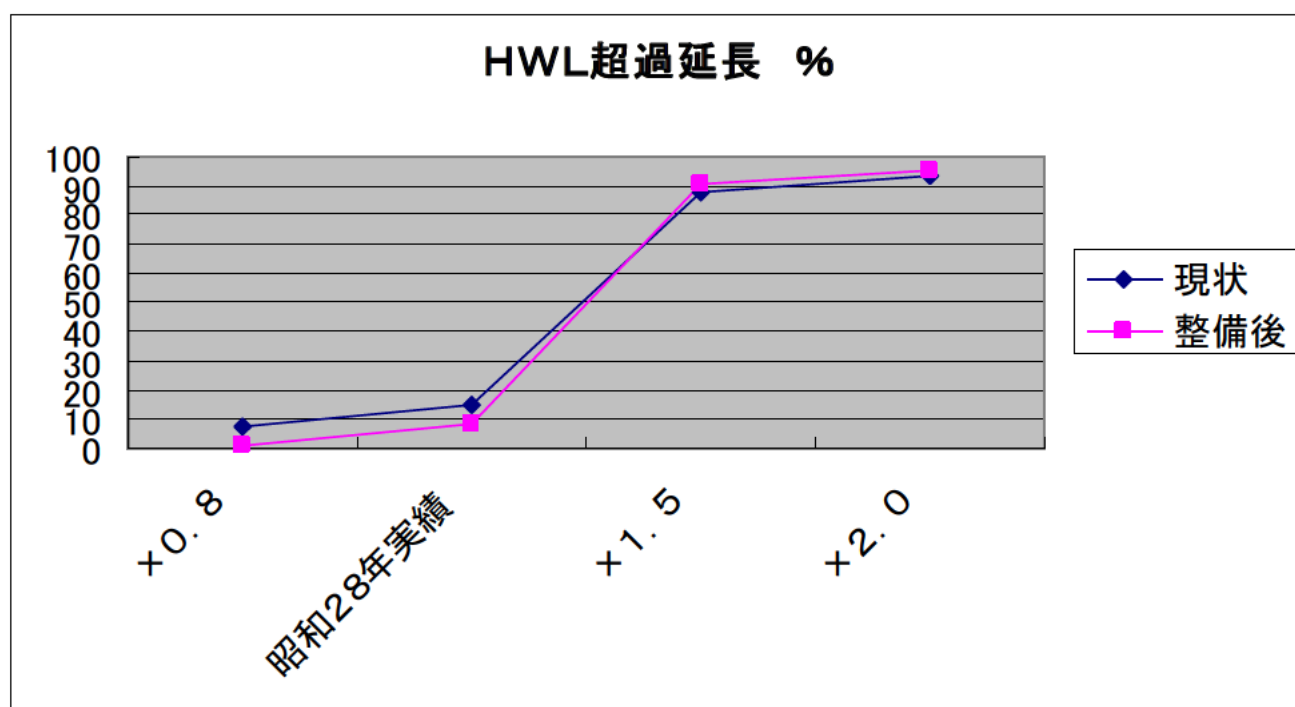
桂川 実績洪水 整備後



距離km



「河川の水位が 計画高水位を越えたならば、 たとえ17cmでも 堤防の決壊危険性は高まる」

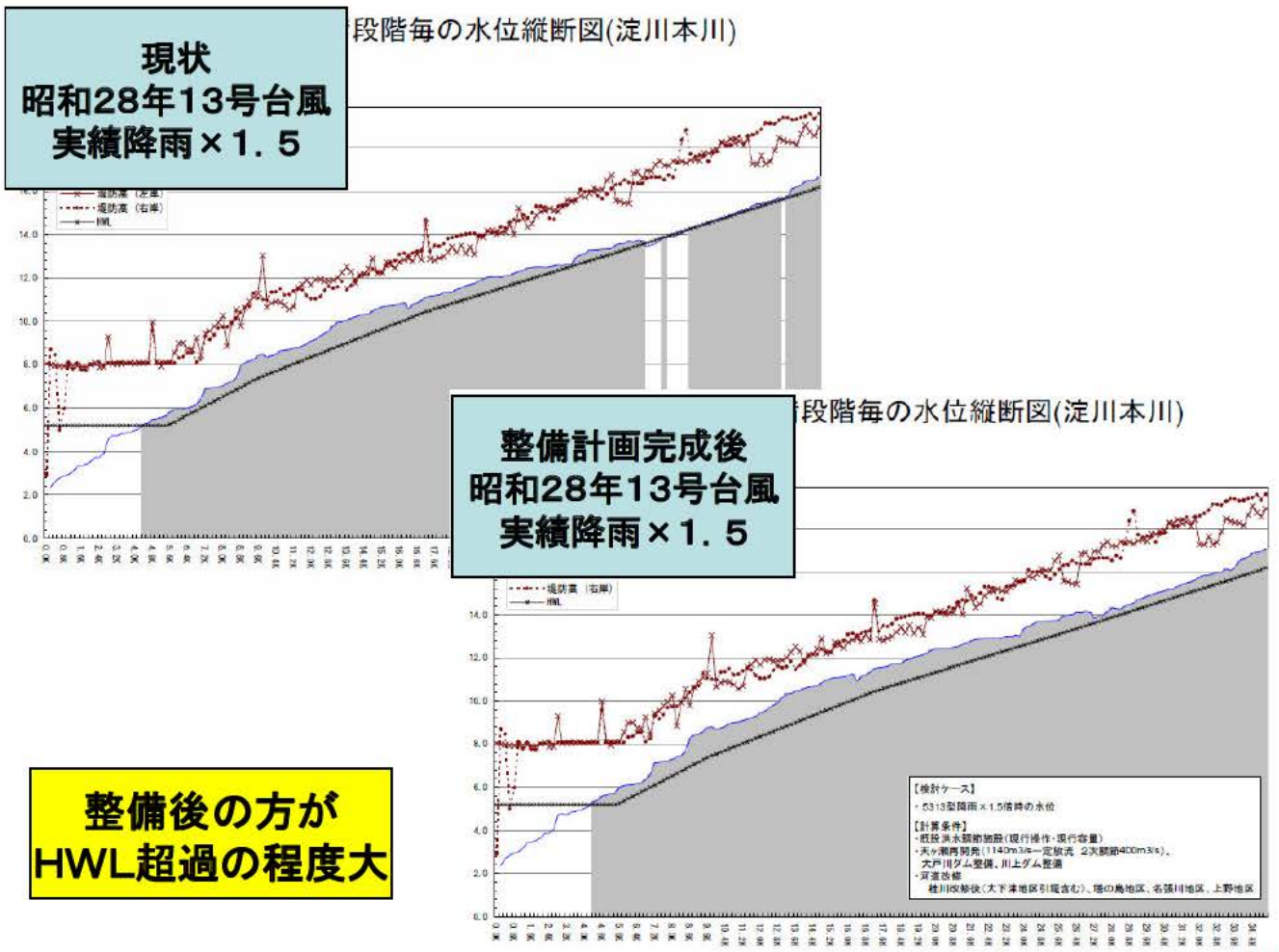
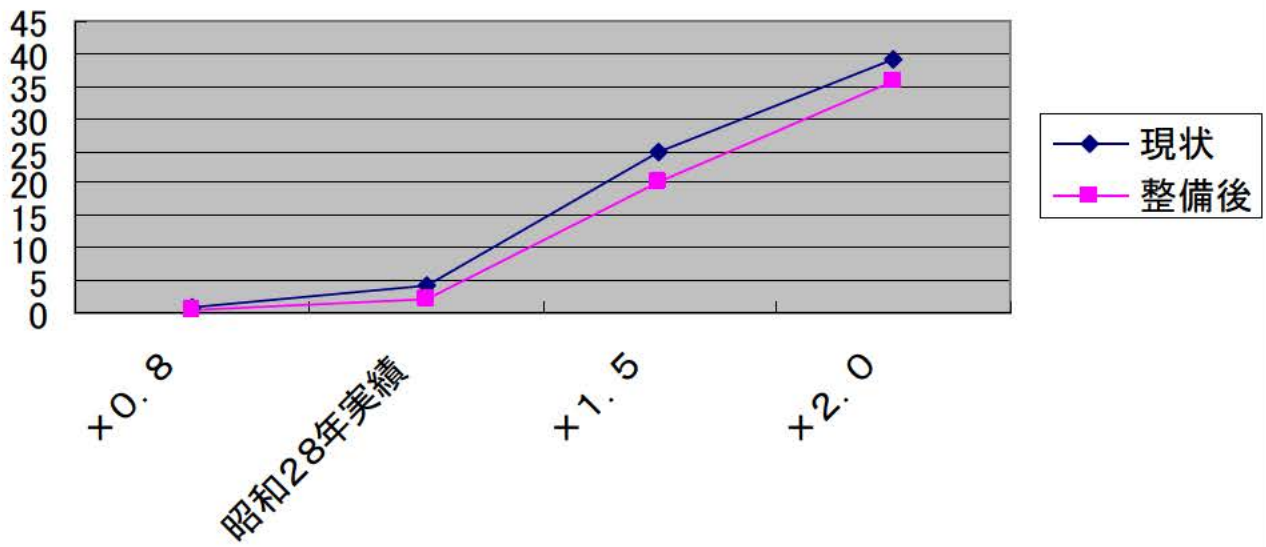


HWLを越えることによる 堤防決壊の危険性は変わらない

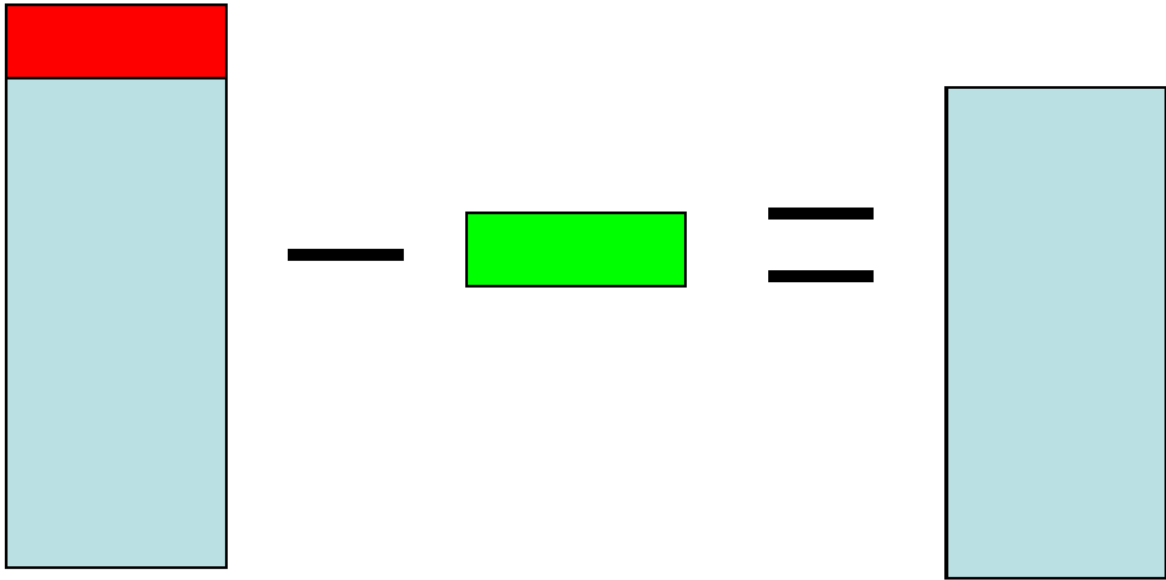
1985年 水理講演会 論文
建設省土木研究所

- 「土堤は越水に対して非常に弱く、堤防破壊の原因の**8割は越水**」
- 「いくら土堤という特殊性があるにせよ**越水すれば破壊**されるとい特性は防災施設として問題」

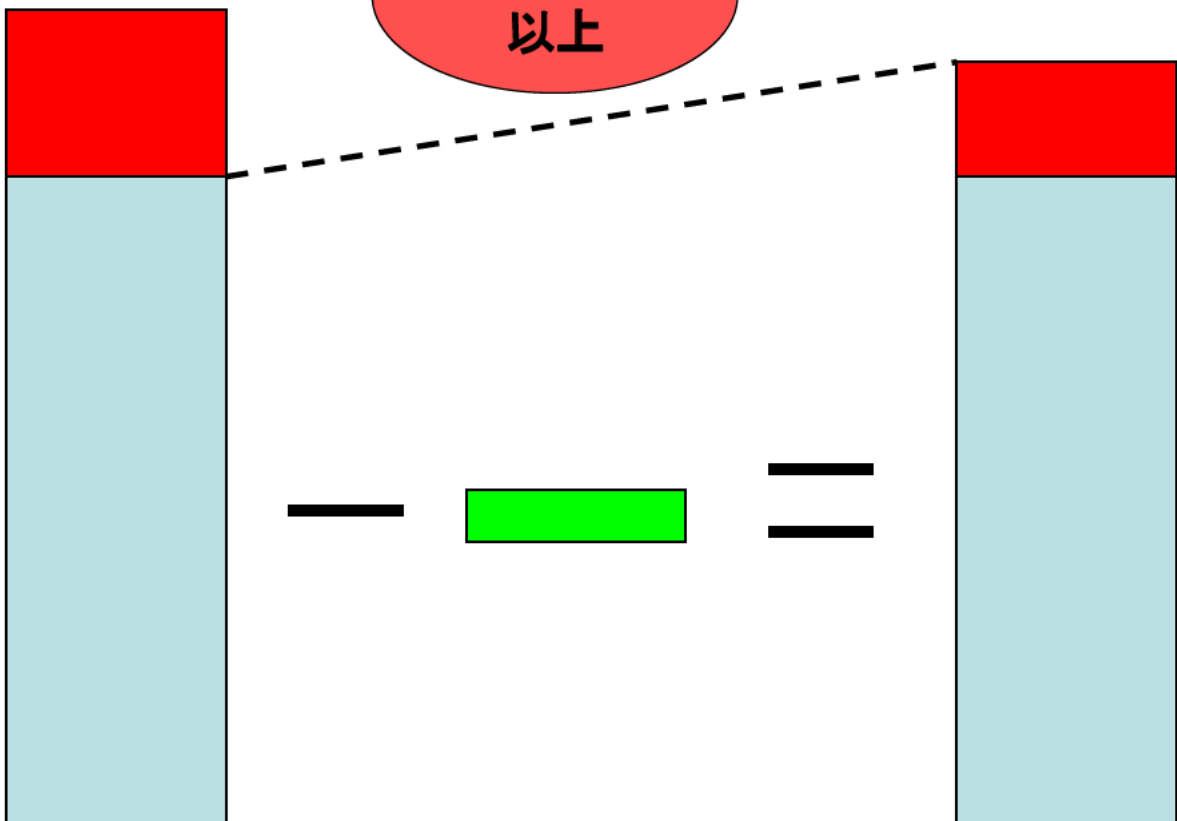
越水延長 %

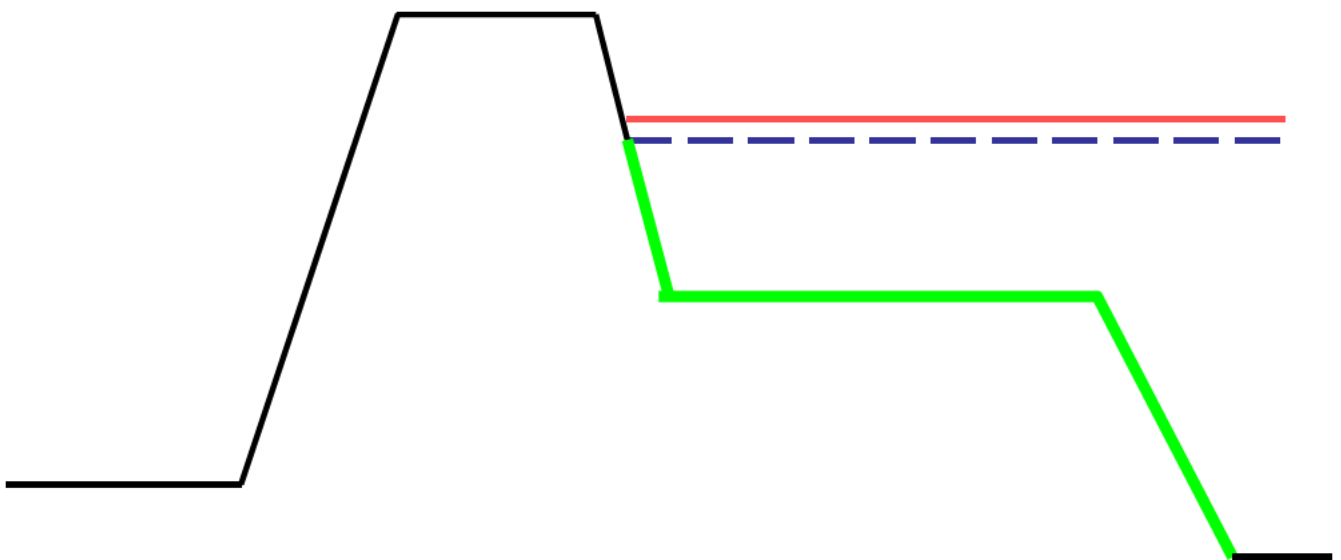
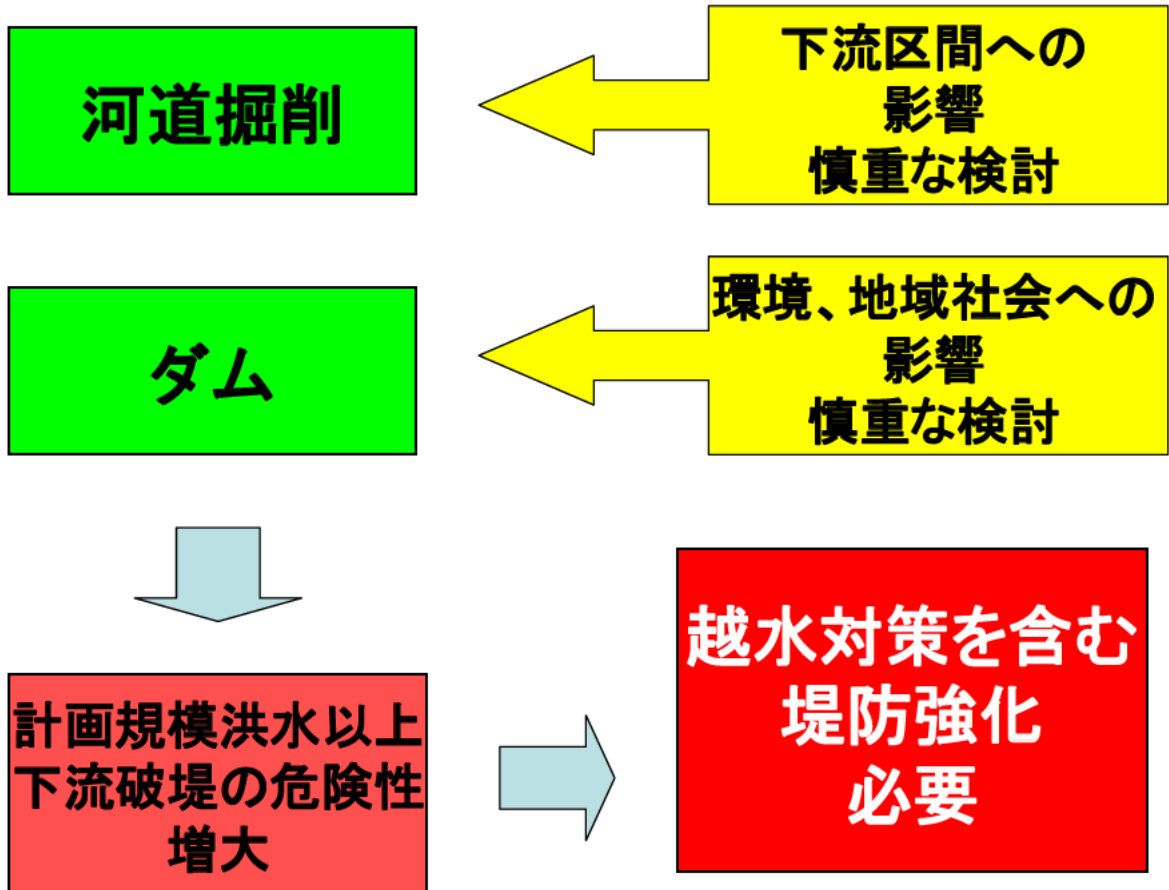


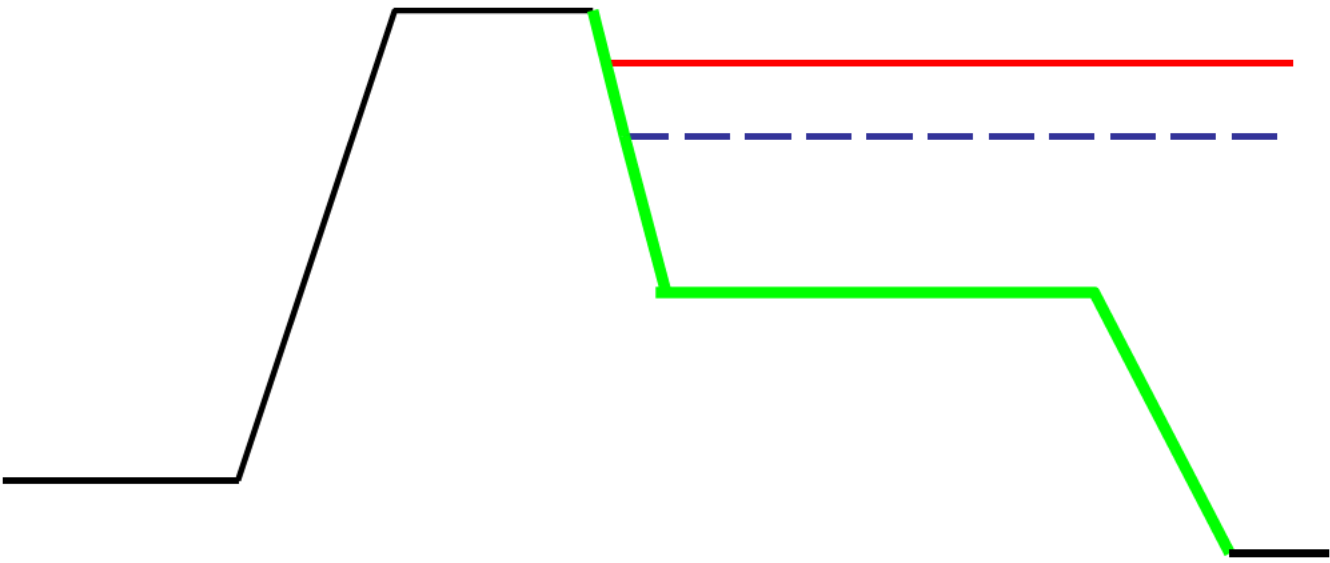
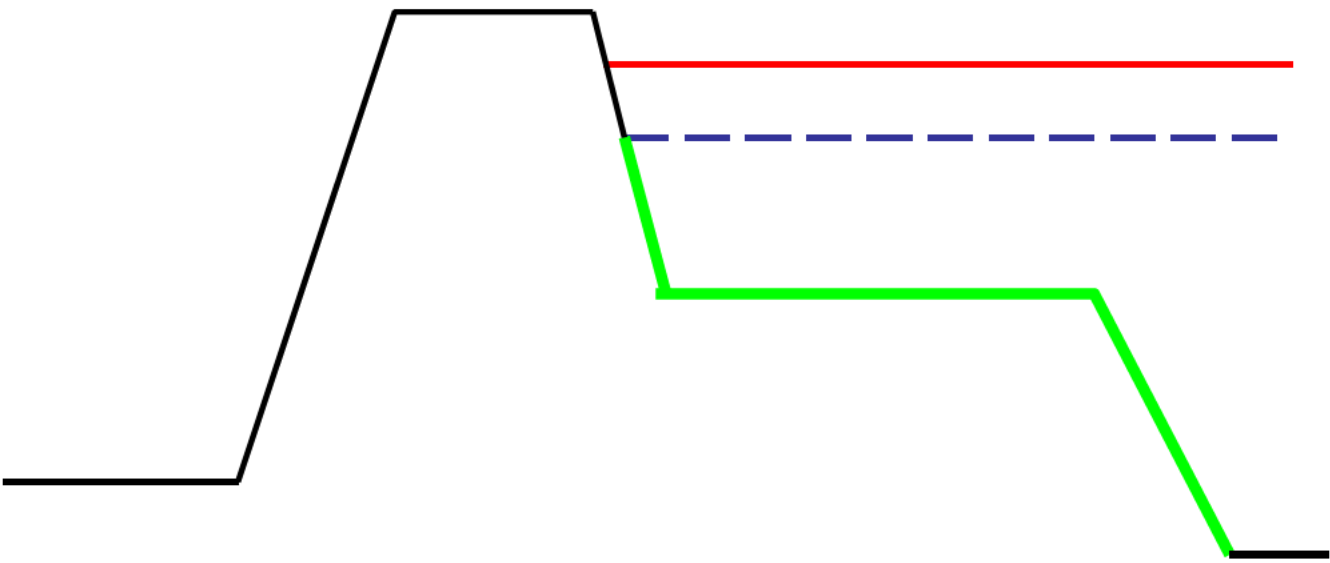
計画対象規模

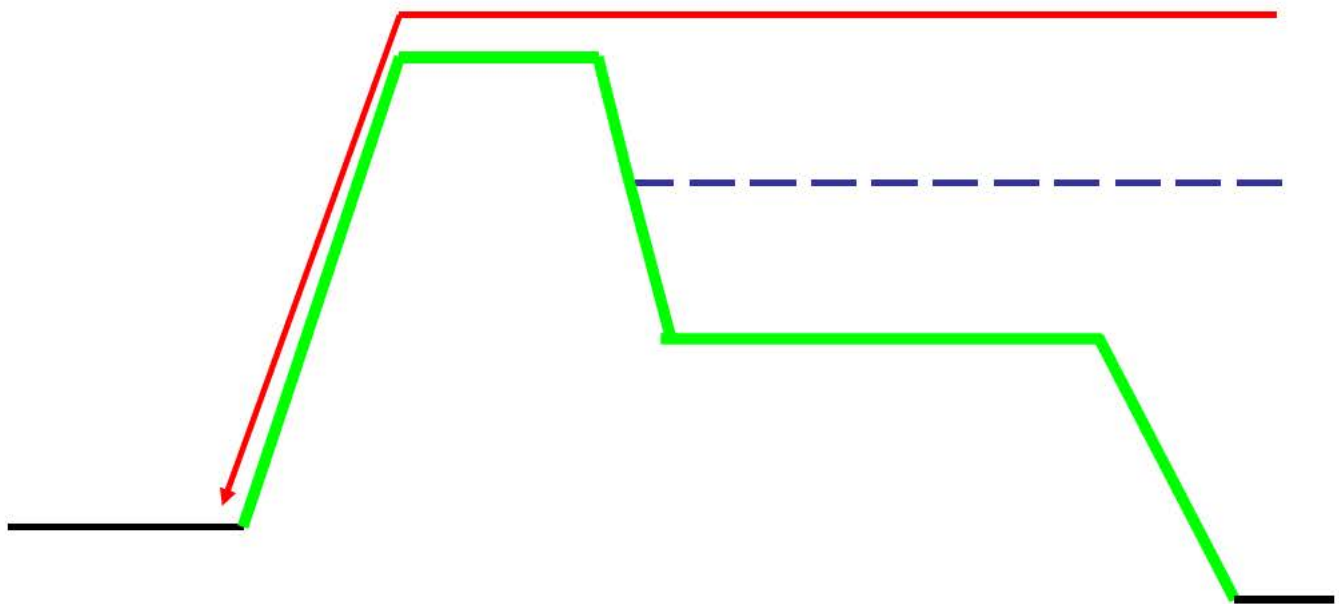


計画対象規模
以上



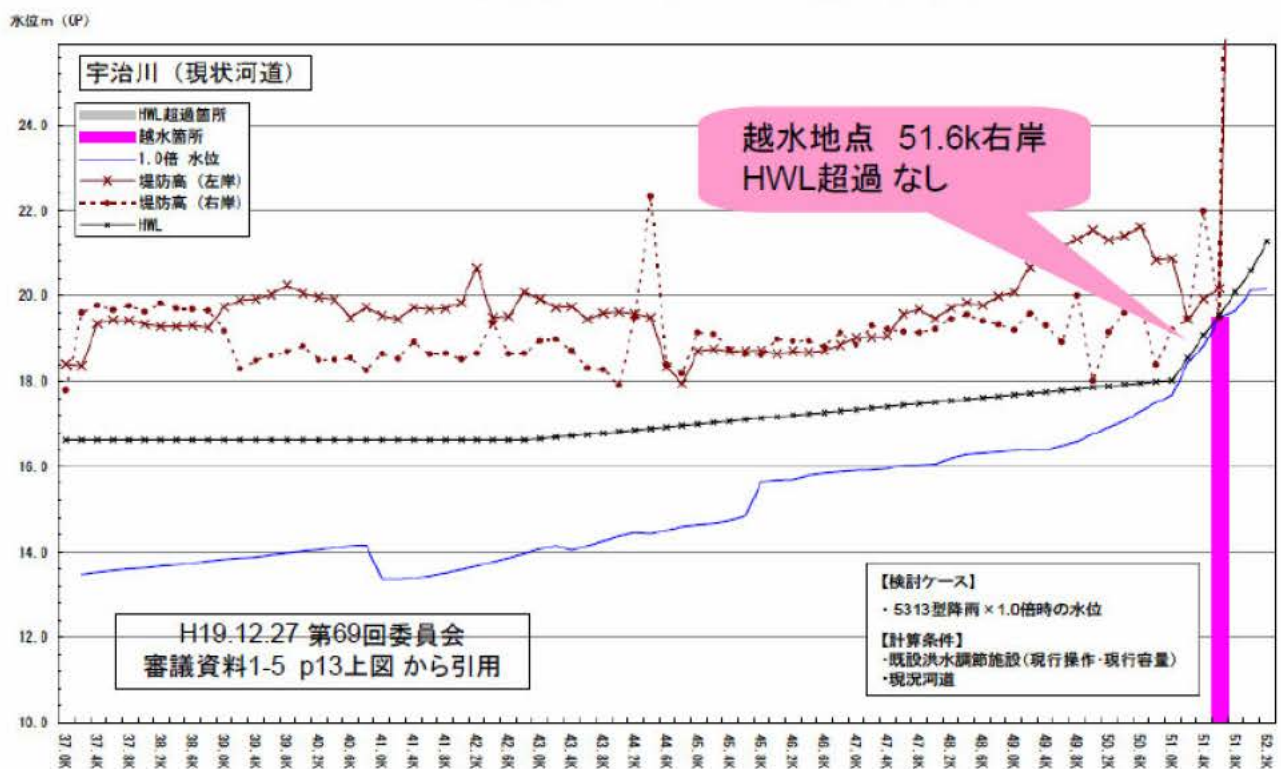






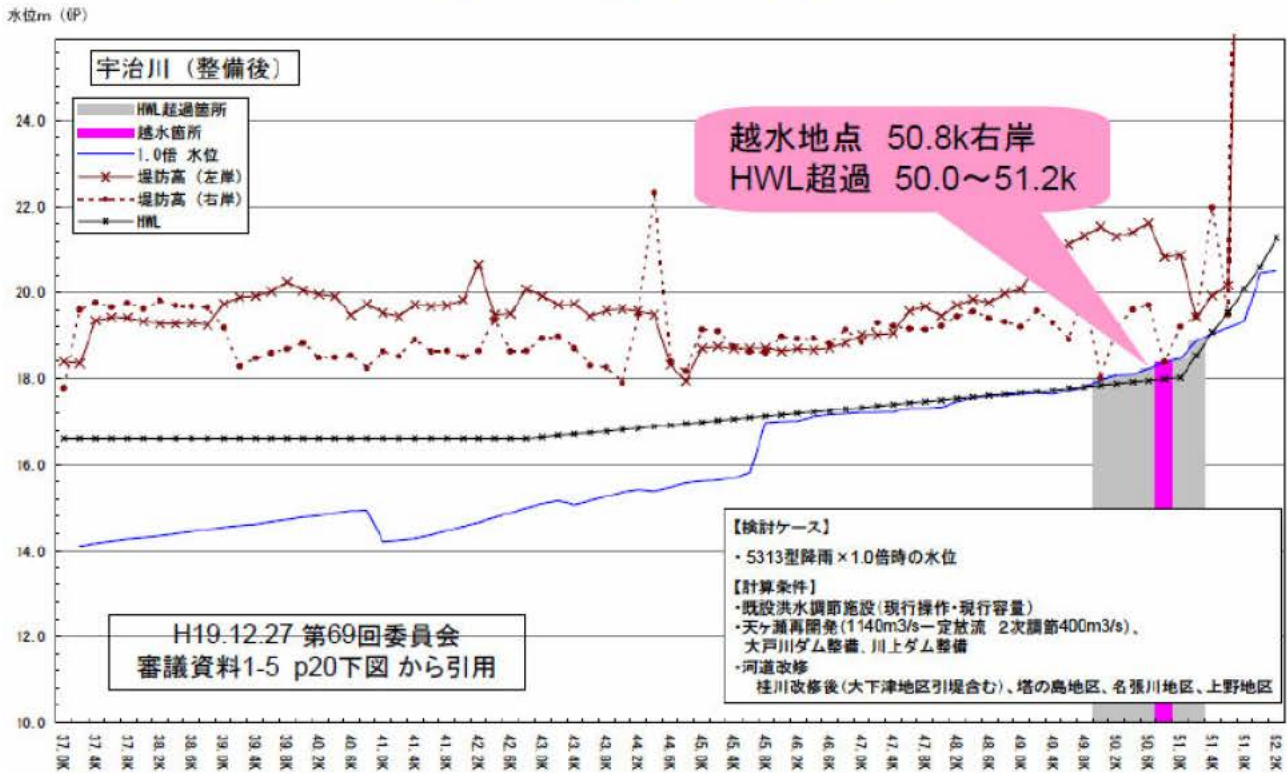
宇治川(現状)の越水箇所

～HWL超過区間はない。51.6k右岸で越水する～

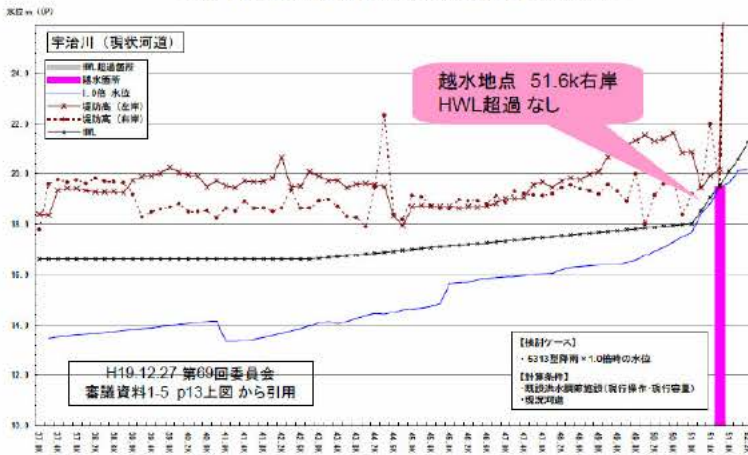


宇治川(整備)のHWL超過箇所、越水箇所

～整備後は、現状よりも危険になる！～



～HWL超過区間はない。51.6k右岸で越水する～



宇治川(整備)のHWL超過箇所、越水箇所

～整備後は、現状よりも危険になる！～

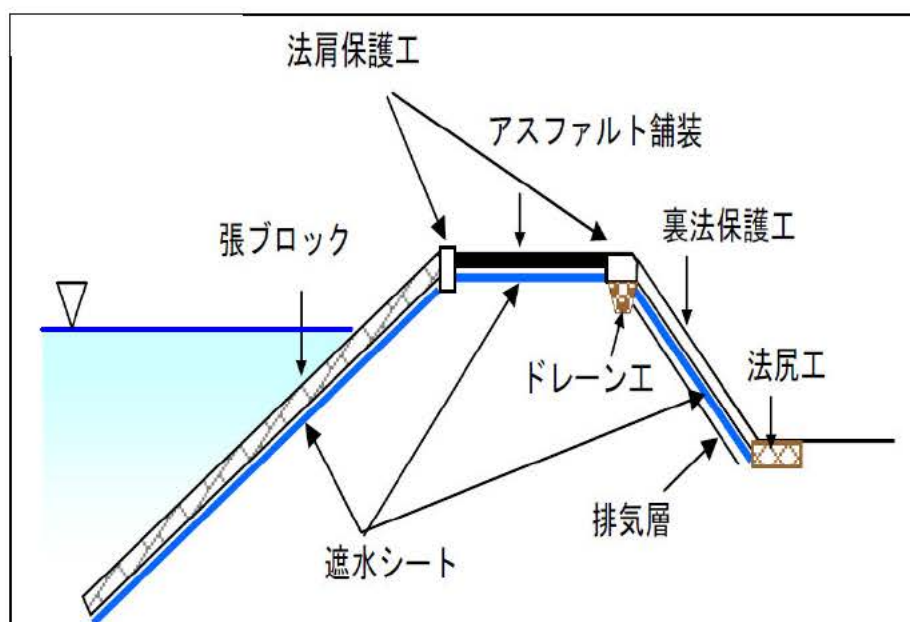


平成10年度国土交通省重点施策

② 「減災」を目的とした施設整備への転換

防災施設等の整備について基本的な考え方を、災害発生を前提としつつ、被害を最小限にするという方向に転換する。

際限のない自然現象に対し、想定を越える洪水が生じても被害を最小限に食い止めるため、たとえ越水しても急激に破堤しないよう……強化対策を実施した堤防……。



雲出川耐越水堤防
三重河川国道事務所HP

河川堤防設計指針
平成12年6月
建設省河川局治水課

第6章 越水に対する難破堤堤防の設計
(越水に対する堤防強化)

「設計方針」
越水の可能性の高い区間の堤防については、
必要に応じ越水に対して
一定の安全性を有するような構造となるよう設計する。

確実な達成方法ない

現在の技術的知見では、
強化対策が確立していない

堤防は長期にわたり嵩上げ、
拡幅を繰り返してつられてきたもの
堤防天端不揃い、樋門等弱点箇所が存在
越水しても一連区間で破堤しにくい機能を保証困難

河川堤防設計指針
平成12年6月
建設省河川局治水課

の照査

の安全性の照査にあたっては、越流水深として30cmを設定する。

の各部に作用する外力は越流水によるせん断力であり、外力として越流水深、堤防の天端や裏のり尻のせん断力を評価する必要がある。本来であれば、をもとに越流水深を設定するのが妥当であるが、評価対象水位そのものには正しており、また耐越水構造の設計、施工、管理上の不確実性を考慮し、この盛水実績をもとに一律30cmの越流水量を外力として設定することにしたもの越流水深30cmは、過去の被災実績における越流水深の累積率50%をとつちる。

の安全性の照査は以下の手順にしたがって実施する。

- ①あたりの越水量の算出
- ②保護工の安全性照査
- ③裏工の安全性照査
- ④尻工の安全性照査

の安全性照査の手順は図 6.3.5 に示すとおりで、先ず設定した越水深をもとに①の越水量を算出し、以下、裏のり保護工、天端保護工およびのり尻工の順に照査する。各部の安全性照査項目は同図および図 6.3.6 に整理したとお

外力として
越流水深30cm
設定し安全性照査